

(様式1・小学校用①)

令和7年度 学校評価報告

草加市立花栗南小学校
(令和8年2月5日作成)

1 学校教育目標 ○考える子 ・夢や志が持てる子・自ら学び、自ら考える子・最後まで粘り強くやり抜く子 ○思いやりのある子 ・自分と仲間を大切に作る子・正しく行動のできる子・お互いの良さを認め合える子 ○体をきたえる子 ・健康や安全に関心をもてる子・自ら進んで体をきたえる子・楽しく運動に取り組む子	
2 重点目標・努力目標 1 一人ひとりの個に応じた教育の推進と確かな学力と生きる力の育成 2 心潤う生徒指導による豊かな心の育成 3 人権を大切にする教育の推進 4 体育的活動の充実と体力の向上の推進 5 安全・安心で美しく潤いのある教育環境の整備 6 地域との連携の強い本校の特色を継承した、地域から愛される信頼を深める特色ある学校づくりの推進	3 前年度の成果と課題 成果 ○ふるさと草加学習を推進していく中での、地域人材の発掘 課題 ●様々な困難を抱える児童に寄り添った支援策の実施

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○おおむね適切に学校の教育目標の具現化に向けた取組を進めることができた。 ●分掌によって仕事量が変わってしまう傾向があるため、仕事量の均等化の工夫が必要である。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○2年間にわたる「ふるさと草加学習」の研究により、地域人材の発掘や地域を活用した学習を進め、年間指導計画に位置付けることができ、地域と児童との交流も進んだ。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○保健主事や養護教諭を中心に学校保健委員会を行い、児童の実態に合った健康教育を実践することができた。 ○安全主任を中心に、年3回の避難訓練や毎月の安全点検の実施。警察の協力を得た不審者対応訓練を行い、児童や教職員の危機管理の意識が高まった。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	B	○情報教育主任を中心に、個人情報の管理について徹底したことで、個人情報に係る学校事故0が継続された。 ●適宜修繕を行ってきたが、校舎の老朽化もあり、毎年新たな修繕が必要になる。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○学校運営協議会を適切に運営し、開かれた学校づくりが推進された。 ○「ふるさと草加学習」を推進してきたことで、地域との連携が密になり、地域の行事に児童が参加したり、地域の人材を活用した授業を行ったりするなど連携した取組が推進された。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	A	○同じ中学校区の学校や、進学先の中学校と定期的に連絡を取り、共通理解のもと教育活動を進めることができています。 ○毎月のお便りの交流に加え、幼稚園や保育園との交流活動を充実させ、目指す児童像について共有することができた。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○教育目標の具現化に向けて、授業改善をしながら適切に教育計画を進めることができた。 ○授業時数など適切に確保することができた。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○花栗南スタイルの確立により、どの学級においても同様な学習の進め方ができるため進級時などにとまどいなく学習を進めることができています。 ○ふるさと草加学習の研究により地域人材の活用が図れた。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳だよりを発行することで学校全体の教職員の指導力向上が図られた。 ○4年生の保健、5年生の理科でいのちの教育を実践し、理解を深めることができた。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年において、ALTの効果的に活用し、計画的に授業を実践できた。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○異学年交流や地域との交流、保護者への公開など特色ある活動を展開することができた。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ふるさと草加学習について研究を進めたことで、各学年とも地域の人材など、外部指導者を活用した学習を年間指導計画に位置付け、効果的に進めることができた。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導主任を中心に、問題の未然防止の取組を計画的に進めるとともに、問題行動に対しては関係機関や保護者とも協力し即時に適切な対応が行われている。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○地域との連携が深まったことにより、家庭と地域と学校が一体となって児童を育成する環境が整備された。 ●目指す児童像についての共有とそのための連携の取組についてさらなる研究が必要である。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者との連携のもと適切に個別の指導計画や個別の支援計画が作成されている。 ○定期的な校内委員会を実施するとともに、草加市教育支援室などと連携を図り児童の実態把握や支援策について検討することができた。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○司書教諭が中心になり、学校司書の協力のもと学校図書館の環境整備が図られ読書自慢の児童の育成ができた。 ○学校応援団を活用した読み聞かせの時間の充実や、地域の児童文学作家と児童の交流活動など積極的な読書活動が推進された。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な授業の中でタブレットを使い効果的な活用方法について研究を進めている。 ●デジタルドリルの効果的な活用方法の研究や、情報モラル教育の充実を進めていく。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○人権教育主任が中心となり、人権作文や人権標語などの取組から、児童の人権感覚の育成に取り組めた。 ●児童一人ひとりがそれぞれの人権に自然と考えられるよう、日常的に互いの人権について考える機会を設けていく。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色 ある 学校 づくり	あいさつじまん	・あいさつ	B	○代表委員を中心に地域の「あいさつの会」の方と行っている朝のあいさつ運動で、あいさつウィークでは、学年ごとに日替わりで全ての児童が校門にてあいさつ運動を行えた。 ●いつでもどこでも誰とでもあいさつのできる児童の育成。
	どくしょじまん	・読書	A	○学校応援団による読み聞かせや、地域の児童文学作家「森埜こみち」氏とのブックトークなど、読書活動の充実を図ることができた。
	そうじじまん	・掃除	B	○掃除の技能の向上を図る日常的な清掃指導に加え、月に1回のピカピカデーの取組、全校での一斉清掃などの啓発活動が進められている。 ●児童が達成感を味わえる清掃活動について考える必要がある。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

・保護者による「学校教育アンケート」では、「児童の安全な登下校」「児童のきまりや約束を守る意識」「教職員の授業に取り組む積極性」「教職員の誠実な対応」に係る項目については、95%以上が肯定的な評価であった。

・ふるさと草加学習に係る研究の2年目を終え、計画的かつ効果的に地域の人材や、隣接する獨協大学と連携した学習活動やビオトープの整備・水田での稲作体験が進められた。

・学校から家庭、地域への連絡手段として「すぐる」やホームページを活用することで、保護者に学校の様子を伝えることができた。

・施設の老朽化部分の修理や学習環境の整備について、適宜進めることができた。

・ICT機器の授業での活用方法について、教職員や児童の理解が深まった。

・児童のメンタルヘルスに関する授業の実践と教育相談体制の充実、校内登校支援室の整備と活用をすすめることができた。

6 次年度の改善策

・多様な悩みや困難を抱える児童の支援の仕方及び、家庭や関係機関との適切な連携

・老朽化した施設の計画的な修繕

・不審者の侵入防止の取組や対策

・総合的な学習の時間を柱とし、各教科と連動した教育課程の研究

・児童の生きる力を育成するための教育課程の研究及び家庭学習でのICT活用等の取組の工夫

・登校支援室の効果的な活用方法の検討を含めた、様々な困難を抱える児童に寄り添った支援の充実